

Weekly コラム

令和 2 年 3 月 17 日

〒541-0055 大阪市中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

三日天下

男なら一度は夢見る天下取り。現代では天下を取るなどという夢に現実味はないが、戦国時代において天下取りはかなり現実的な野望だったと言えるだろう。

そして、戦国時代に天下を取った人物といえば豊臣秀吉に徳川家康、そして明智光秀も忘れてはいけぬ。主君の織田信長を本能寺の変で暗殺し、「三日天下」といわれる短期間ではあるが、天下を手中に収めたのは間違いない。

ちなみに、明智光秀が本能寺で織田信長を暗殺したのが 1582 年 6 月 2 日で、羽柴秀吉に敗れた山崎の戦いは同年 6 月 13 日のこと…って、10 日以上も天下を取っている。それでも「三日天下」と言われているのはいったいなぜなのか…？

どう考えても数え間違いとは思えない「三日」ですが、なぜこの日数が使われているのでしょうか？

そもそも「三日」という言葉自体に「きわめて短い期間」という意味があるから…というのが有力な説です。

典型的な使い方として「三日坊主」が有名ですが、これは「きわめて短い期間だけしか続かないこと」という意味であり、一日だろうと一週間だろうと「三日坊主」と呼ばれています。

そのため「三日天下」も厳密な天下取りの期間ではなく、「きわめて短い期間の天下」という意味だと考えられています。

上記と異なり、明智光秀が織田信長を暗殺後、京で政務を執った期間が三日だったことから「三日天下」になったという説もあります。こちらの方が「三日」の日数についての根拠としては分かりやすいですが、残念ながら明智光秀が実際に三日間政務を執ったという文献などは存在しないようで、信憑性は薄いと言えます。

どうやら「三日＝短い期間」という意味で「三日天下」となったのが本当のところのようです。とはいえ、このような話題が出るだけでも明智光秀がいかに大物だったのかが分かる事例と言えるでしょう。

他にも、明智光秀が羽柴秀吉と相まみえた山崎の戦いにおいて、両者が取り合った「天王山」という京都の山の地名がスポーツにおいて首位攻防戦のことばに使われている事も有名です。

2020 年の NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」では、明智光秀が主人公になっている様なので、興味がある方は御覧になってみてはいかがでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。